

# 普賢 徒然寺報 Fugen



発行所：天台宗高龍山明王院普賢寺  
発行人：普賢寺 広報部  
〒183-0004 東京都府中市紅葉丘2-26-4  
電話 042-369-2278 /FAX : 042-336-2610  
URL : <http://www.fugenji.com>  
メール : [info@fugenji.com](mailto:info@fugenji.com)



## 『源氏物語』の中の比叡山

『源氏物語』 ゆかりの地  
〜比叡山〜

春彼岸第6号で、比叡山の坂本ケールについて触れましたが、文学の秋に因み、今回は文学の中の比叡山について触れてみましょう。『源氏物語』ゆかりの地といえば、まず京都が有名ですが、天台宗の総本山である比叡山（滋賀県大津市）もまた物語にたびたび登場します。

「手習」の巻は次のような言葉から始まります。「そのころ横川に、なにがし僧都とかひて、いと尊き人住みけり」

### 『源氏物語』

「手習」巻より  
この横川とは、比叡山延暦寺の横川を指しています。そして、僧都（そうず）のモデルとされているのは恵心僧都・源信であると言われています。比叡山延暦寺とは、延暦寺という建物と呼ぶのではないようです。

延暦寺という建造物があるのではなく、山内の境内地あちこちにある堂塔の総称のことを表すのだそうです。そしてこの山内は地域別に三塔に分けられ、東を「東塔（とうとう）」、西を「西塔（さいとう）」、北を「横川（よかわ）」というように呼ばれます。

この横川が冒頭に触れた横川のことです。第三世天台座主慈覚大師円仁によって開かれました。そして、ほかによく知られているのが横川の僧都のモデルである恵心僧都であり、恵心僧都の修行の場が恵心院です。恵心院の脇には最近になって建てられた（平成二十二年十月吉日建之とあり）、『源氏物語』の横川僧都遺跡という石碑があります。

今回は、この平安時代の大作として知られる皆様もよくご存じの『源氏物語』の中に見られる比叡山や僧について、見てみましょう。

中でも物語の後半、重要な役割を担う僧都が登場する「手習」。このあらすじは次のように記されています。

「手習」巻 あらすじ

そのころ、横川の僧都という徳の高い僧都がありました。僧都には母尼と妹尼の婦り道、急に具合が悪くなりました。僧都は今年いっぱい下山はすまいと誓いもかたく山籠もりしていたのですが、年老いて命も危うい母親が旅の空にて亡くなるようなことがあってはと、急いで駆けつけたのでした。（ここでいう山籠もりとは比叡山にこもる意）下山した僧都は、母尼、妹尼と共に宇治院に宿をとることにしました。

すると、宇治院の寝殿の裏のほうで、僧都は倒れている若い女人を見つめます。この女人こそが、宇治で姿を消した「浮舟」その人でありました。あとに悩みぬいた末に出家を決意する浮舟ですが、その浮舟の発見される場所、浮舟の心情を語るなど様々な面で、この横川や僧都とのやりとりは重要な場面となります。

日本仏教の母山として崇められ、天台宗の総本山でもある比叡山ですが、時には古典物語ゆかりの地として訪れてみるのもいいかもしれませんね。



「源氏物語」の横川僧都遺跡



恵心院



## これって何? 【ちゅうけい】とは

仏事の際に、僧侶が手にしている扇のような形のもの。あれは一体何なの?とお思いました。あれは一体何なの?とお思いました。な

あれは、【ちゅうけい】と呼ぶものだそうです。今回はその【ちゅうけい】の謂れ(いわれ)について触れてまいりましょう。【ちゅうけい】とは【中啓】と書きます。形は先の方が少し狭い末広状になっているものです。辞書には次のように書かれています。「扇の一種。親骨の中ほどから外側へ反らし、畳んでも上半分が半開になるように作られたもの」コトバンク『デジタル大辞泉』(小学館)より。【中啓】の「啓」とは、ひらくの意だそうで、この半開きが「中啓を表すようです。由来を知らば面白いものですね。

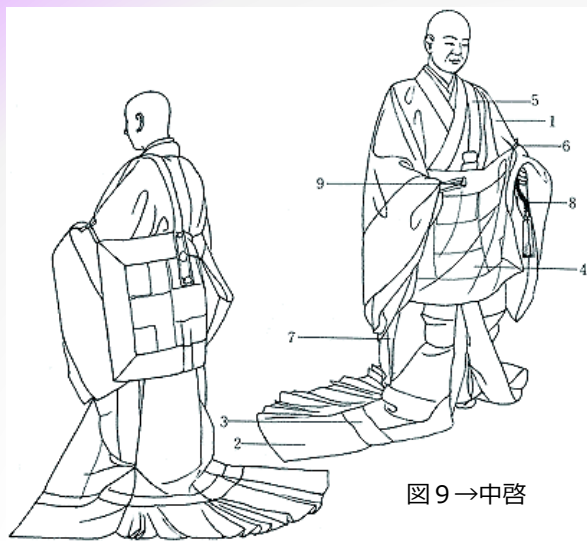


図9→中啓



言葉

コトノハアレコレ

言葉

## 第五回 「彼岸太郎」に……

「彼岸」とは、仏語からきたものということはよく知られていますね。梵語(ぼんご)の Parānī(波羅蜜多はらみた)を漢語として訳した「至彼岸」の略で、「むこうぎし」の意味とされています。

さらに、語源には異説もあり、「日オガミ」の意味の「日ガミ」からきた言葉ではないかとも言われています。故金田一春彦氏によりますと、この「日ガミ」の説は、民族学者の和歌森太郎氏によるものだそうです。

また、「彼岸太郎」という言葉もあります。彼岸太郎(ひがんたろう)、八専次郎(はっせんじろう)、土用三郎(どようざぶろう)、寒四郎(かんしろう)と続く言葉のことです。これは、彼岸の一日目、八専の二日目、土用の三日目、寒の四日目のことで、この日が晴れば、その年は豊作になるとされた、その年の豊凶を占ったものです。

(\*【八専】とは、陰暦の、壬子(みずのえね)の日から癸亥(みずのとい)までの十二日間のうち、丑(うし)、辰(たつ)、午(うま)、戌(いぬ)の四日のことを、間日(まび)と呼び除いた残りの八日のことを指します。ちなみに、一年のうち計六回あり、その日は雨になることが多いと言われ、仏事などを避けるとされています。)